

## 第64回大会準備状況

### 第64回大会（武蔵野美術大学 9月26日～27日）準備報告

コロナウイルス対策にてご多忙のこと、お見舞い申し上げます。このたびは武蔵野美術大学（東京都小平市・鷹の台キャンパス）において、教育史学会第64回大会の開催となり、身の引き締まる思いで準備中です。方今の時局に鑑みて防疫優先とし、ネット経由の会議と連絡で非会員の教員・職員も一丸となって、教育史学会会員のみなさまをお迎えする準備を進めております。

現時点での詳細は、本号通信に同封いたしました別綴「教育史学会 第64回大会 開催のご案内」をぜひともご覧ください。また、4月末からウェブページを公開しており、発表等のアプライも5月には開始となります。よろしく申し上げます。

\*\*\*\*\*

#### 《概要・アクセス》

2020年9月26日（土）・27日（日）の開催です。武蔵野美術大学鷹の台キャンパス（東京都小平市小川町1-736）へは、JR中央線国分寺駅や立川駅からのバス、西武国分寺線鷹の台駅からの徒歩が利用できます。

大学アクセス <https://www.musabi.ac.jp/access/> タイムテーブルなどの詳細情報、アプライ、最新の追加情報はウェブページをご覧ください。研究発表やコロキウムの申し込みは、このウェブページで締め切りの6月22日（月）23:59までに送信をお願いします。

E-mail : [mau@jshse64.jp](mailto:mau@jshse64.jp)

大会ウェブページ : <http://www.jshse64.jp/>

#### 《シンポジウム》

9月26日（土）に「芸術教育と教育史学」をテーマとしてシンポジウムを行います。美術や音楽などの芸術教育を対象に多角的に論じてみたいと思います。

報告としては、発題を高橋陽一（武蔵野美術大学）「芸術概念は明白か—その統合と自由」がつとめ、基調報告は大坪圭輔（武蔵野美術大学・非会員）「新しい学習指導要領と芸術教育—教育史は美術教育になぜ必要か」を設定し、さらに報告として菅道子（和歌山大学）「音楽教育は万人に開かれているか—「唱

歌」必修化の過程を通して」と亀澤朋恵（愛知江南短期大学）「美術を教える資格とは何か—「文検図画科」から見えてくるもの」を準備しています。

#### 《美大の特色を生かした大会》

教育史学会大会は総合大学や大規模校で開催されることが通常ですが、今回は美術の単科大学での開催です。実は講義教室も少なく、大学事務局・研究室の協力で土曜日の授業教室を移動して2号館2階フロアに場所を確保します。当日は3階から彫刻制作のドスン、トンテンなど、楽しい大きな音や震動があります。日常騒音ですから、気にせずに研究発表を続行してください。

そんな美術大学の特色を感じていただく企画も学生スタッフと検討中です。芦原義信設計によるキャンパス計画、藤本壮介設計の図書館、美術館展示から実技教育の現場まで、参加・見学のワークショップを考えています。ウェブページなどで随時企画をご紹介しますのでよろしく申し上げます。

教育史学会 第64回大会準備委員会

委員長 高橋 陽一

事務局長 伊東 毅（非会員）

委員 白石 美雪（非会員）

小澤 智子（非会員）

田中千賀子

## 機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集委員会委員長 小玉 亮子

2020年5月9日に開催された第4回機関誌編集委員会において、『日本の教育史学』第63集に掲載する論文を下記の通り決定しましたので、お知らせします。

- (1) 井上 快 (広島大学)  
幕末期における藩儒の『孟子』講義  
—吉村秋陽・斐山に着目して—
- (2) 新藤 康太 (北海道大学・院)  
婦人の改良と衛生  
—渡邊鼎の束髪奨励論に着目して—
- (3) 柏木 敦 (大阪市立大学)  
教育調査会の学齢再検討をめぐる議論
- (4) 坂本 紀子 (北海道教育大学)  
戦後北海道における「引揚児童」と学校  
—都市部における児童の就学状況—
- (5) 松本 和寿 (筑紫女学園大学)  
戦後教育改革期の指導要領における「教育評価」機能の検討  
—「累加記録摘要」(1949)を中心に—
- (6) 國分 麻里 (筑波大学)  
朝鮮人女学生と改名  
—1940～1945年の東萊高等女学校を中心として—
- (7) 井上 滉人 (北海道大学・院)  
アントニオ・デ・ネブリハ『子供の教育について』の修辞法  
—初期近代スペインにおける教育言説の様式—

今回の投稿論文数は26本(日本19本、東洋3本、西洋4本)となりましたが、字数超過等により4本が不受理となりました。投稿者の方は、「論文投稿に際しての留意事項」を熟読の上投稿いただきますよう、切にお願いいたします。

第62集より論文審査手続が抜本的に改正され、本号は、審査手続き改正後、2回目の審査となりました。前号に引き続き、第1段階審査の結果によって、投稿者に原稿修正の機会が設けられ、第2段階審査に付された投稿者には、編集委員会より修正意見が提示され、それにもとづいて投稿者は原稿を修正の上再提出していただき、さらに審査を行いました。この投稿論文審査手続の改正は、できるだけ多くの方に投稿論文を掲載していただくことができるようにすることを目的としたものです。会員諸氏におかれましては、手続改正の趣旨をご理解いただき、今後さらに多数の投稿をいただけることを切に期待しております。

第一段階審査では、「論文審査手続」により、各領域の編集委員が領域ごとの投稿論文すべてを審査して、10点満点・10段階の評点を付け、その平均点をもとに採択の可否、および第2段階審査への送付の可否を決定し、平均点6点以上を採択の基準にしています。

今回で、新しい投稿論文審査手続による論文審査が2回目となりましたが、まだまだ、審査手続には、改善すべき事項も少なくないと思われます。今後、編集委員会はもとより理事会等においても審査手続の改善について検討していくことが求められています。会員諸氏におかれましても、ご意見等がありましたら、学会事務局にお寄せいただければと思います。

## 教育史学会研究奨励賞規程・教育史学会研究奨励賞選考内規の改正について

「教育史学会研究奨励賞規定」および「教育史学会研究奨励賞選考内規」は、2019年9月の理事会で、以下のように改正されましたので、ご報告いたします。

### 教育史学会研究奨励賞規程新旧照表

新	旧
<p>第1条 本規程は、会則第15条に基づき、教育史学会研究奨励賞（以下「奨励賞」という。）の授賞<u>対象者</u>、その選考手続き、などについて定める。</p> <p>第2条（略）</p> <p style="padding-left: 2em;">二（略）</p> <p style="padding-left: 2em;">三（略）</p> <p>第3条 奨励賞の授賞<u>対象者</u>の選考は、教育史学会研究奨励賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）が行う。</p> <p>2（略）</p> <p>3（略）</p> <p>4（略）</p> <p>第4章（略）</p> <p>2（略）</p> <p>付 則 この規程は、第63回大会年度より施行する。</p> <p>（附 則） この規程は、第58回大会年度より施行する。</p>	<p>第1条 本規程は、会則第15条に基づき、教育史学会研究奨励賞（以下「奨励賞」という。）の授賞者、その選考手続き、などについて定める。</p> <p>第2条 奨励賞を授賞する「若手会員」は、次の各号のいずれかに該当する会員とする。</p> <p style="padding-left: 2em;">1 当該『日本の教育史学』が刊行される年度の4月2日において39歳以下である者。</p> <p style="padding-left: 2em;">2 当該『日本の教育史学』が刊行される年度が、大学院博士後期課程に入学した年度から数えて10年目以内である者、もしくはそれに準ずる者。</p> <p>第3条 奨励賞の授賞者の選考は、教育史学会研究奨励賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）が行う。</p> <p>2 選考委員会は、当該『日本の教育史学』の機関誌編集委員会の委員長、副委員長および委員長が指名する2ないし3名の委員をもって構成する。選考委員長は機関誌編集委員長を、選考副委員長は機関誌編集副委員長をもって充てる。</p> <p>3 選考は、機関誌編集委員会における論文掲載可否にかかる審査をふまえて行う。</p> <p>4 選考の具体的な手続きについては、別に定める。</p> <p>第4条 奨励賞は、総会において代表理事が授与する。</p> <p>2 奨励賞は、賞状および副賞とし、副賞は、金5万円とする。</p> <p>（附 則） この規程は、第58回大会年度より施行する。</p>

## 教育史学会研究奨励賞選考内規新旧対照表

新	旧
<p>1. (略)</p> <p>2. 選考委員長は、<u>通常5月に開催される機関誌編集委員会の会議</u>において、各機関誌編集委員から、奨励賞候補の論文の選定に関する意見（どの論文を候補とするか、候補となる可能性のある論文についての評価など）を聞く。</p> <p>3. (略)</p> <p>4. 選考委員長は、第2項の会議終了後、<u>第一段階審査および第二段階審査の結果、第一段階審査で掲載可となった後に修正した場合はその結果</u>および第2項の意見をふまえ、<u>副委員長および選考委員</u>と合議のうえ、掲載決定論文の中から授賞候補の論文を選定する。</p> <p>5. 5月下旬に掲載決定論文の執筆者から<u>入稿</u>原稿が提出された際に、選考委員長は、授賞候補の論文の写しを副委員長および各選考委員に配布する。</p> <p>6. (略)</p> <p>7. 選考委員会は、各授賞<u>対象者</u>の論文につき、その選定理由書（200字程度）を作成する。</p> <p>8. 選考委員長は、授賞<u>対象者</u>、対象論文およびその選定理由書を代表理事に報告する。</p> <p>9. 選考委員は、授賞候補の論文、選考委員の名前、決定した授賞<u>対象者</u>、対象論文などを委員以外の者に伝えてはならない。</p> <p>10. (略)</p> <p>11. (略)</p> <p>12. (略)</p> <p>付 則 この内規は、第63回大会年度より施行する。</p> <p>附 則 この内規は、第54回大会年度より施行する。</p>	<p>1. 『日本の教育史学』への論文投稿にあたり、投稿者に生年月日と大学院博士後期課程入学（進学）年度を申告してもらう。</p> <p>2. 選考委員長は、<u>第二段階審査に基づいて掲載論文を決定する</u>機関誌編集委員会の会議において、各機関誌編集委員から、奨励賞候補の論文の選定に関する意見（どの論文を候補とするか、候補となる可能性のある論文についての評価など）を聞く。</p> <p>3. 選考委員長は、前項の会議終了後、副委員長と合議のうえ、機関誌編集委員の中から選考委員を指名する。選考委員会は、機関誌編集委員会における日本教育史担当2人以上、東洋教育史担当1人以上、西洋教育史担当1人以上をもって構成する。</p> <p>4. 選考委員長は、第2項の会議終了後、<u>第一段階審査の結果、それに対する執筆者の申し立て、第二段階審査の結果</u>および第2項の意見をふまえ、副委員長と合議のうえ、掲載決定論文の中から授賞候補の論文を選定する。</p> <p>5. 5月下旬に掲載決定論文の執筆者から完成原稿が提出された際に、選考委員長は、授賞候補の論文の写しを、<u>第一段階審査の結果およびそれに対する執筆者の申し立てとともに</u>各選考委員に配布する。</p> <p>6. 選考委員長は、選考委員会を開催する。その会議において、合議により授賞対象の論文を選定する。</p> <p>7. 選考委員会は、各授賞者の論文につき、その選定理由書（200字程度）を作成する。</p> <p>8. 選考委員長は、授賞者、対象論文およびその選定理由書を代表理事に報告する。</p> <p>9. 選考委員は、授賞候補の論文、選考委員の名前、決定した授賞者、対象論文などを委員以外の者に伝えてはならない。</p> <p>10. 代表理事は、事務局を通じて授賞者に対し、奨励賞を授与することになった旨、大会の前に通知する。</p> <p>11. 選考委員長は、大会前日に開催される理事会において、選考の経過および結果を報告する。</p> <p>12. 選考委員会の開催のための旅費、授賞候補の論文の写しの作成や送付などにかかる費用は、機関誌編集委員会の予算から支出する。機関誌編集委員会の予算には、あらかじめ奨励賞選考のための費用を含める。</p> <p>附 則 この内規は、第54回大会年度より施行する。</p>

## \* 図書

- ・清水寛『太平洋戦争下の全国の障害児学校—被害と翼賛』新日本出版社 2018/10/15
- ・小国喜弘編『障害児の共生教育運動—養護学校義務化反対をめぐる教育思想』東京大学出版会 2019/11/25
- ・大森秀子『成瀬仁蔵の婦—思想と女子高等教育—比較教育文化史的研究』東信堂 2019/11/30
- ・浅沼薫奈『日本近代私立大学史再考—明治・大正期における大学昇格準備過程に関する研究』学文社 2019/12/20
- ・清水寛『太平洋戦争下の国立ハンセン病療養所—多摩全生園を中心に』新日本出版社 2019/12/30
- ・広田照幸編『歴史としての日教組 上巻—結成と模索』名古屋大学出版会 2020/2/10
- ・広田照幸編『歴史としての日教組 下巻—混迷と和解』名古屋大学出版会 2020/2/10
- ・林潤平『自然愛をめぐる教育の近代日本—自然観の創出と変容の一系譜』世織書房 2020/2/15
- ・井深雄二『現代日本教育費政策史—戦後における義務教育費国庫負担政策の展開』勁草書房2020/2/20
- ・石渡尊子『戦後大学改革と家政学』東京大学出版会 2020/2/21
- ・板橋孝幸『近代日本郷土教育実践史研究—農村小学校教員による地域社会づくり構想の展開』風間書房 2020/2/25
- ・岩木勇作『近代日本学校教育の師弟関係の変容と再構築』東信堂 2020/2/28
- ・井ノ口淳三『コメニウスの生涯と謎を追う—通説の疑問を歩いて考える』文理閣 2020/3/1

## \* 紀要・ニューズレターなど

- ・高橋浩平・清水寛編「資料篇 清水寛著作関係目録一覧 [I] —1959 (昭和34) 年2月～2002 (平成14) 年3月—」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学Ⅲ)』第51巻第1号別刷 埼玉大学教育学部 2002
- ・小川修一・清水寛編『清水寛著作関係目録一覧 [II] —2002 (平成14) 年3月～2016 (平成28) 年3月—付・書評』 2016/3
- ・小川修一・清水寛編『清水寛著作関係目録一覧 [III] —2016 (平成28) 年4月～2019 (令和元) 年12月—付・書評』 2019/12
- ・『日本盲教育史研究会 会報』第5・6合併号 日本盲教育史研究会 2019/7/1
- ・『玉川大学教育博物館 館報』第17号 2018年度 玉川大学教育博物館 2019/8/31
- ・須田将司『教化運動』解説・総目次・索引 不二出版 2019/9/25
- ・『筑波大学教育学系論集』第44巻第1号 筑波大学人間系教育学域 2019/10/1
- ・『ディルタイ研究』第30号 日本ディルタイ協会 2019/11/18
- ・『図録 番組小学校の軌跡—京都の復興と教育・学区』京都市学校歴史博物館 2019/12/10
- ・『大学教育学会誌』第41巻第2号 (通巻第80号) 大学教育学会 2020/1
- ・『大学教育学会ニューズレター』No. 113 大学教育学会 2020/2/4
- ・『立教学院史研究』第17号 立教大学立教学院史資料センター 2020/2/28
- ・『上智大学 教育学論集』54号 上智大学総合人間科学部教育学科 2020/3/31

## 事務局からのお知らせ

### 1. 書評委員の選出について

同じく、2020年3月の理事会において第64集の書評委員を選出いたしました。選出された委員は以下の通りです。

#### ■第64集書評委員

日本：大矢 一人（藤女子大学）

柏木 敦（大阪市立大学）

○鈴木 理恵（広島大学）

東洋：佐藤 由美（埼玉工業大学）

新保 敦子（早稲田大学）

西洋：白水 浩信（北海道大学）

山岸 利次（宮城大学）

※○は、委員長

### 2. 会費納入のお願い

2019年9月より第63回大会年度が開始されています。5月15日時点で今年度および過年度会費をお支払いいただけていない会員には、振込用紙を同封させていただきました。会費の納入にご協力いただきますよう、お願いいたします。

年会費納入は、「ゆうちょ銀行」口座からの自動引き落としが便利です。事務局の事務効率化のためにも自動引き落としにご協力のほど、お願いいたします。自動引き落としをご希望の方は、必要書類をお送りいたしますので、事務局までお知らせください。自動引き落としの場合も領収書を発行しています。ご入用の場合は、事務局までご連絡ください。

### 3. 会員登録の変更について

住所や所属が変更になった場合は、「会員登録内容変更届」（HPの「事務局からのお知らせ」をクリック）に記載のうえご提出ください。メールでも受け付けておりますので、よろしくお願いいたします。

2020年5月

学会事務局 小野 雅章

教育史学会 会報 No. 127 2020年5月25日

編集・発行 教育史学会事務局 小野雅章  
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40  
日本大学文理学部教育学科  
小野雅章研究室気付  
電話 03 (5317) 9714  
電子メール mail@kyouikushigakkai.jp  
郵便振替口座 00140-0-552760 教育史学会事務局

印刷 城島印刷株式会社